

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：32511

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23501206

研究課題名(和文)江戸時代における地域医療研究 ～岡山県邑久郡の中島家をもとに～

研究課題名(英文)Community Medicine in Edo Period; the Study of Nakashima doctor family in Oku County, Okayama Prefecture.

研究代表者

松村 紀明(MATSUMURA, Noriaki)

帝京平成大学・ヒューマンケア学部・講師

研究者番号：00422379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：最も重要な課題である所蔵の手紙や医療記録・日記類などの写本、医療技術を習得する際・医療活動を行う際に参照した刊本の調査は無事に完了し『中島家蔵書目録』(「中島医家資料研究 第1巻第0号」)として出版することができた。

また、研究代表者や研究分担者やそれ以外の研究者による資料の解読・解析が進められた。この解読・解析により中島家の個々の医療活動の具体的内容や、近接する他の医師との相互関係、地域社会との様々な関係性が明らかになった。これらの研究成果は「主な発表論文等」にあるように、その時々発表してきているが、2015年中に単行本『備前岡山の在村医「中島家の歴史」』として思文閣から刊行予定である。

研究成果の概要(英文)：The catalog of books, letters, diaries, medical treatment records and other manuscripts which are in the possession of Nakashima family, has been completed and published as "Nakashima-ke Zousho Mokuroku (the library catalog of Nakashima family)" (ISSN:2189-387X)

The decipherment and the analyses of them has revealed the detail of the medical activities and the interaction between Nakashima doctors and other doctors or local community. This study will become a book in 2015.

研究分野：医学史

キーワード：地域医療 科学技術史 医学史 医史学 岡山藩 在村医

1. 研究開始当初の背景

現代は、社会・政治・経済・科学技術など、あらゆる側面でグローバル化が進行している時代である。それは、航空機や巨大船といった高速・大量輸送機関の発達とそれによる人的・物的な交流・移動が極めて短時間かつ大量に行われるようになった時代ということでもある。このことにより、例えば新型コロナウイルスによる全世界的なパンデミックが、極めて短時間のうちに起こりうることも示している。つまり、医療・公衆衛生においても、国際協調のもとグローバルな対応が求められる時代になったということである。

しかしながら、「グローバル化」は必ずしも「地域クラスター(地域社会)」の軽視ということでもなければ両者が排他的な関係にあるわけではない。むしろその逆であり、「全体」が「部分」の集合体である以上、グローバル化の進行は地域クラスターの役割が強調されることにもつながりうる。特に、医療は茫漠とした「地球人」が対象ではなく、特定の地域に住まう人を対象とするものであり、確固たる「地域医療」が確立して初めて、国家や世界レベルでの医療が成立しうるのである。

このような点から、医療における地域クラスター(地域社会) = 「地域医療」を様々な側面から検討することは、極めて現代的な研究課題である。

地域医療や在村医についての先行研究は、例えば蘭学史や地方史、医学史などの側面からなされている(田崎哲郎『在村蘭学の展開』1992年、青木歳幸『在村蘭学の研究』1998年、田中圭一『病いの世相史』2003年など)が、本研究は中島(なかしま)家に所蔵されている関連資料に基づいて岡山県邑久郡の地域医療を歴史的側面から明らかにすることを目指している。特に中島家を取り上げる理由は次の通りである。

・ 中島家は、岡山県邑久郡(現瀬戸内市)において、江戸後期以降から現在の長期に渡って周辺地域社会の医療活動に貢献している医家であるということ。 歴史的連続性
・ 「科学に関する文献資料と実物資料を総合的に扱えるコミュニケーションの研究」(文部科学省科学研究費補助金特別領域研究:課題番号 14023218)と、これから派生した研究により、中島家の蔵書資料のデータベースの一部が完成している。これによって、中島家が地域社会において様々な医療・医薬活動を行ってきたこと(京都や長崎に遊学した際の詳細な日記、診療、薬売薬、種痘などの記録があり。後述)またそれに関連した資料が大量に残されていることが判明している。 現存する資料が詳細かつ豊富

以上の2点から、地域医療を歴史的側面から明らかにする際、中島家が適切な一事例となると考えている。

2. 研究の目的

本研究は、大きく分けて以下の2点を明らかにすること目的とした。

(1)中島家の医療の多面性

中島家の代々の医師たちは、地域社会において自らの得意分野・専門分野だけではなく様々な医療活動を行っていた。例えば、中島友玄(なかしまゆうげん:1808(文化5)年~1876(明治9)年)は、産科・外科を得意・専門としていたが、鍼灸施治を行っていたことが判明している(「鍼灸施治姓名録」について-幕末の岡山県邑久郡周辺における鍼灸記録」松村紀明・中島洋一、第111回日本医史学会総会、2010年、口頭発表)。さらに種痘活動も行っている(「中島友玄の「種痘諸事留」岡山県邑久郡における幕末~明治初期の種痘施工の変遷」、第110回日本医史学会総会、2009年、口頭発表)。また、広範囲な売薬活動が行われていたことも判明している(「江戸期在村医の製売薬-岡山県邑久郡中島家の関連文書の分析から」梶谷真司、第111回日本医史学会総会、2010年、口頭発表)。中島家はこのような代々、その時代に合わせて様々なことを試みているが、それがどのようなものだったのか。先行研究を踏まえこうした中島家の多面的な地域医療活動を具体的に明らかにし、その全貌を捉えること。

(2)地域医療活動の変化の内的・外的要因

中島家の医療活動の多面性はどこから来たのか。それには主として、代替わりのような中島家自身に由来する「内的要因」と、政治体制や医療制度など、時代の流れとともに起きた社会の変化のような「外的要因」がある。これらは相互に関連しつつ、中島家の地域医療の在り方を規定したと考えられる。中島家のいかなる内的要因に、どのような外的要因が影響したのかを明らかにし、それが地域医療活動にいかなる特徴を与えたのかを解明すること。

3. 研究の方法

前述の先行研究・調査によって、中島家には1500点以上の文書資料や医療関係機器・薬品などが残されていることが判明している。まずはこれを中島家の代ごとに分類・解読・分析を行い、それぞれの代においてどのように医療活動が行われたのかを明らかにする。 中島家の医療の多面性の解明

その後、医療活動がどのように変遷していったのか、その変遷はどのような内的あるいは外的要因によって引き起こされたのかを明らかにする。 地域医療活動の変化の内的・外的要因の解明

夏・冬の年2回程度、中島家で長期資料調査を行う。また、構成員がおのおの見地から資料の解読・分析を、年間を通じて行い、研究過程の相互報告・検討会を2ヶ月に1回程度の頻度で、都内あるいは岡山で開催した。

4. 研究成果

まず、中島家による医療の多面性を解明するための最も重要かつ必須な課題であった、中島家所蔵の手紙や医療記録・日記類などの写本、医療技術を習得する際・医療活動を行う際に参照したと思われる刊本の調査は無事に完了し、その総目録を『中島医家資料研究 第1巻第0号 中島家蔵書目録』として出版することができた。

また、これに基づいて、研究代表者や研究分担者だけでなく、郷土史研究者やそれ以外の研究者による資料の解読・解析が進められた。この解読・解析により中島家の個々の医療活動の具体的内容や、近接する他の医師との相互関係、地域社会との様々な関係性が明らかになった（地域医療活動の変化の内的・外的要因の解明）。これらの研究成果は、後述の「主な発表論文等」にあるように、その時々論文あるいは学会発表・学会講演などの形で発表してきているが、2015年中に単行本『備前岡山の在村医「中島家の歴史」』としてまとめ、思文閣から刊行予定である。同書は、単なる中島家の通史だけでなく、上記の解読・解析の研究成果を体系的に収録している。その内容を以下に掲げる。

- ・中島宗仙・友玄と漢蘭折衷医学（執筆：町）
- ・中島哲と明治期岡山の美笑流（執筆：黒澤）
- ・地域医療史研究の端緒としての『鍼灸施治姓名録』（執筆：松村）
- ・中島友玄の製売薬（執筆：梶谷）
- ・胎産新書の諸本（執筆：清水）
- ・中島友玄の診療圏（執筆：木下）
- ・種痘活動について（執筆：木下）
- ・江戸時代の産科手術～回生術の展開と受容をめぐる（執筆：鈴木）
- ・地域における神子職の事例研究-岡山県邑久郡中島家文書を手がかりに-（執筆：平崎）

なお、同書は年表や重要文書の翻刻なども収録しており、長年の中島家文書研究の総決算とも呼べる内容となっている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計5件)

板野俊文・田中健二・中島洋一、中島友玄の「回生鉤胞代臆」を読む、医譚、査読なし、100巻、2014年、7393-7418

鈴木則子、江戸時代の結核と女性、女性歴史文化研究所紀要、査読なし、22巻、2014年、3-14

町泉寿郎、近世日本の医学にみる「学び」の展開、日本漢文学研究、査読有、7巻、2012、53-78

町泉寿郎、田中彌性園文庫に所蔵される書画と近世京阪の儒学・医学、杏雨、査読有、15巻、2012年、135-184

梶谷真司、死を語る理由の必然性と歴史性、超域文化科学紀要、査読有、第17号、2012年、41-63

〔学会発表〕(計22件)

鈴木則子、Scenes of Edo-period Obstetric Surgery、The Association for Asian Studies Annual Conference、2014/03/30、アメリカ合衆国・フィラデルフィア

鈴木則子、江戸時代の産科手術、平成25年度総研大学交流会修了生招聘セミナー「長倉賞受賞者の研究最前線」、招待講演、2014/03/20、神奈川県三浦郡・総合研究大学院大学本部

清水信子、「胎産新書」諸本について-中島家所蔵本を中心に-、第114回日本医史学会学術大会、2013/05/11~12、東京都港区・北里大学東洋医学総合研究所

酒井シヅ・中島洋一、岡山県邑久郡中島家資料にみる蘭学関係書について、第114回日本医史学会学術大会、2013/05/11~12、東京都港区・北里大学東洋医学総合研究所

板野俊文・中島洋一、中島家にある「解体新書」とその書き込みからわかること、第114回日本医史学会学術大会、2013/05/11~12、東京都港区・北里大学東洋医学総合研究所

鈴木則子、江戸時代の産科手術～回生術の展開と受容をめぐる、第114回日本医史学会学術大会、2013/05/11~12、東京都港区・北里大学東洋医学総合研究所

梶谷真司、Philosophy as Dialogue and Education - Practice of Philosophizing in a diversified Society、北 International Conference、Contemporary Philosophy in the Age of Globalization、招待講演、2013/02/09、アメリカ合衆国・ハワイ大学

松村紀明、Traditional medicine in the local Japanese community during the Edo period、第6回アジア医学史学会（国際シンポジウム）、招待講演、2012/12/13~15、神奈川県横浜市・慶應義塾大学日吉キャンパス

鈴木則子、江戸時代の労さい（結核）とジェンダー、第9回日ジェンダー史学会大会、2012/12/08、東京都府中市・東京外国語大学府中キャンパス

梶谷真司、Philosophizing from Pluralism - Philosophical Practice for Co-Existence in a Globalized Society、北京大学哲学系100周年記念国際会議 Philosophy Education and Contemporary Society - A Global Meeting of Chairs of Philosophy Departments、招待講演、2012/10/28、中華人民共和国・北京大学

松村紀明・木下浩・梶谷真司・鈴木則子、江戸後期の岡山県邑久郡周辺における地域医療研究～中島家文書をもとに～、第113回日本医史学会学術大会、2012/06/17、栃木県下都賀郡・獨協医科大学

清水信子、中島家蔵書資料について、第 113 回日本医史学会学術大会、2012/06/17、栃木県下都賀郡・獨協医科大学

鈴木則子、Epidemiological characteristics and medical treatment of measles in Japan during the Edo period、2nd Eastern Asia Dermatology Congress、招待講演、2012/04/01、中華人民共和国・北京大学

町泉寿郎、近世日本の医学にみる「学び」の展開、プリンストン大学講演会、招待講演、2012/02/22、アメリカ合衆国・プリンストン大学

松村紀明、江戸期在村医の医療活動分析への視点～岡山県邑久郡中島家文書から、洋学史学会 1 月例会、2012/02/05、東京都調布市・電気通信大学

町泉寿郎、江戸時代の医学の基底-写本から版本へ、日本東洋医学会千葉県部会学術講演会、招待講演、2012/01/22、千葉県千葉市・千葉市生涯学習センター

松村紀明、江戸期在村医の医療活動～岡山県邑久郡中島家文書の針灸記録から、日本医史学会 11 月例会、2011/11/26、東京都文京区・順天堂大学本郷キャンパス

梶谷真司、江戸期在村医の医療行為における製壳薬～岡山県邑久郡中島家文書の調査から、日本医史学会 10 月例会、2011/10/22、東京都文京区・順天堂大学本郷キャンパス

町泉寿郎、医書にみる学問伝授と古典の形成、欧州日本学協会第 13 回大会、2011/08/26、エストニア国・タリン大学

木下浩・中島洋一、中島友玄の患者の通院圏、第 112 回日本医史学会学術大会、2011/06/12、東京都文京区・順天堂大学本郷キャンパス

④中島洋一・松村紀明、中島宗仙の阿蘭陀取油法について-文政 2 年宗仙長崎遊学時の写本-、第 112 回日本医史学会学術大会、2011/06/12、東京都文京区・順天堂大学本郷キャンパス

②町泉寿郎、UCSF 図書館所蔵の福井済生館文書、第 112 回日本医史学会学術大会、招待講演、2011/06/11、東京都文京区・順天堂大学本郷キャンパス

〔図書〕(計 3 件)

中島洋一・酒井シツ・町泉寿郎・梶谷真司・鈴木則子・木下浩・松村紀明・黒澤学・清水信子・平崎真右、備前岡山の在村医「中島家の歴史」、思文閣、2015(出版予定)、総ページ数 400

中島洋一・清水信子・松村紀明、中島医家資料館、中島医家資料研究 第 1 巻第 0 号 中島家蔵書目録、2015、総ページ数 64

鈴木則子、吉川弘文館、江戸時代の流行り病 麻疹騒動はなぜ起こったのか、2012、総ページ数 211

〔産業財産権〕 出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕 ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松村 紀明(MATSUMURA, Noriaki)
帝京平成大学・ヒューマンケア学部・講師
研究者番号: 00422379

(2) 研究分担者

町 泉寿郎(MACHI, Senjurou)
二松学舎大学・文学部・教授
研究者番号: 40301733

梶谷 真司(KAJITANI, Shinji)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号: 50365920

酒井 シツ(SAKAI, Shidu)
順天堂大学・医学部・名誉教授
研究者番号: 50365920

鈴木 則子(SUZUKI, Noriko)
奈良女子大学・生活環境学部・教授
研究者番号: 20335475

(3) 連携研究者